



ハあも二い



ヨガサークル Kids's Mama Yoga



わたしたちがめざす男女共同参画社会とは、「すべての人が尊重され、多様な生き方を選択することが可能で、家庭、地域、職場などにおいて個人の能力を十分に発揮することができる社会」です。

子育て中の親たちにとって最大の課題は、小さな子どもたちとの外出のあり方ではないでしょうか。時には、気の合う仲間や子育て中の親子が集まって、情報交換や趣味のサークル活動にも参加したい。

そんな子育て中の親のために、あつぎパートナーセンターでは、貸館利用者を対象に1歳から小学校3年生までの子どもを対象に託児サービスを行っています。

主な託児サービスの利用者は、ダンスやフラワーアレンジメントなどのサークル活動等に参加している若いお母さんたちが中心です。託児サービスでお子さんを預け、月2回のヨガサークルに通う女性は、「たとえ1時間でも自分の好きなことに時間を使えることは、大変貴重です。気軽に無料、しかも自分のすぐそばで子どもを見てもらえることはとてもうれしいことです。あらゆる場所で無料託児が増えてくれたらいいですね。」と実感を込めて話していました。

子育て中であっても、自分らしさを持って輝きながら生き生きと生活し、安心と喜びをもって子どもたちを育てることができる社会、それは「子どもを生き、育てやすい社会」の実現につながるのではないのでしょうか。

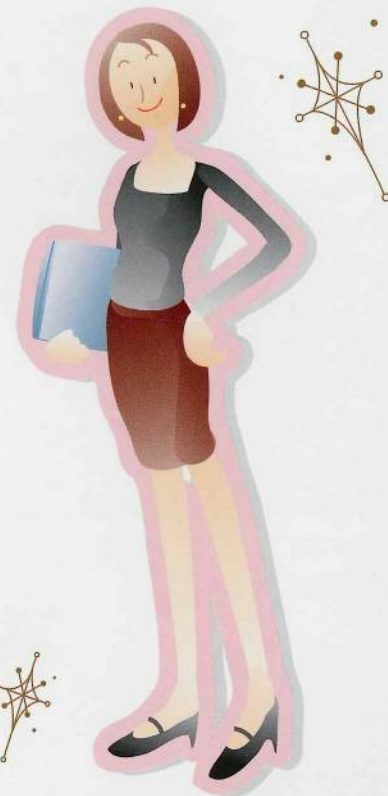
女性の社会進出が進むと出生率がさがる??

OECD加盟24か国(1人当たりGDP1万ドル以上)のデータによれば、1970年時点では、女性の労働力の高い国ほど出生率が低い傾向にあったのに対し、2000年時点では、女性の労働力が高い国ほど、出生率が高いという傾向がみられます。労働力率と出生率は、どちらかが上がれば他方も上がるという固定的な関係ではなく、両者に関する社会環境(施策、制度、価値観等)があるとみられます。したがって、女性の労働力率が高くなる。つまり女性の社会進出が進むと出生率が下がるとは言えません。

アメリカや北欧のノルウェーなどは、昔から多くの女性が働いているというイメージがありますが、1970年には、日本の方が多くの女性が働いていました。アメリカ・オランダ・ノルウェーなどは、70年以降、女性労働力を上昇させながら、80年代半ば以降には出生率も回復してきています。一方、日本は、70年から2000年の労働力率の上昇幅が24か国中最も小さく、出生率は下がり続けている状況です。

アメリカ・オランダ・ノルウェーなど、女性労働力率を上昇させながら出生率も回復してきている国の社会環境には、男性を含めた「働き方の柔軟性」、固定的性別役割分担意識の見直しや男性の家事・育児参加・雇用機会の均等などの「ライフスタイル選択の多様性」などが確保されているという特徴があります。

「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較報告書」より



「あつぎパートナーセンター」は、男女のあらゆる分野への参加を促進し、男女共同参画社会の実現を目標とした施設です。男性のグループもご利用できます。

平成18年10月発行
 編集 八あも二い編集委員
 発行 厚木市市民協働部男女共同参画課
 厚木市中町1-4-3
 あつぎパートナーセンター内
 電話 046(225)2500(直通)
 FAX 046(223)8432
 e-mail 1150@city.atsugi.kanagawa.jp

少子化対策と男女共同参画社会

再チャレンジしやすい社会の実現

女性が産む子どもの平均数を示す2005年の合計特殊出生率が1.25と過去最低を更新し、2003年、2004年の1.29をさらに下回りました。

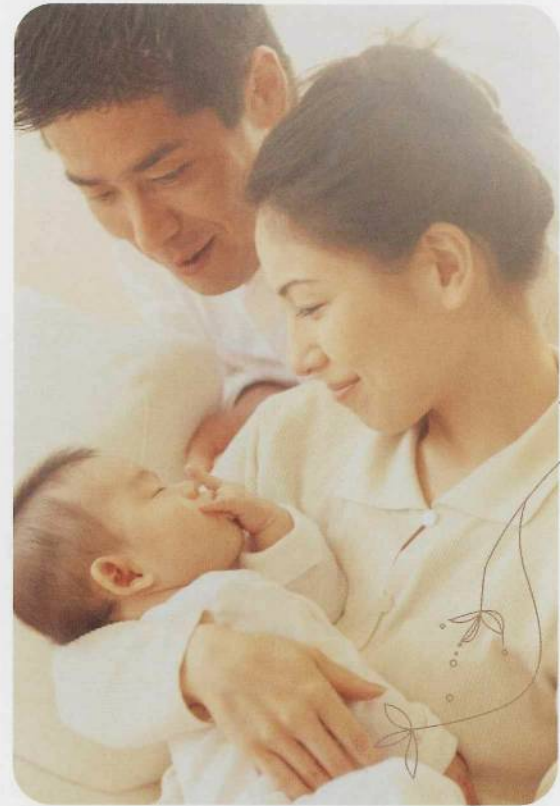
少子高齢化が進行し、ついに人口減少時代に突入した現在、日本が将来にわたり活力ある経済・社会を維持していくためには、新たな発想の下で社会のあり方を考えていくことが急務です。

少子化の原因については、女性が「出産」か「仕事」のどちらかの選択を迫る社会的な構造が主な原因の一つとされています。

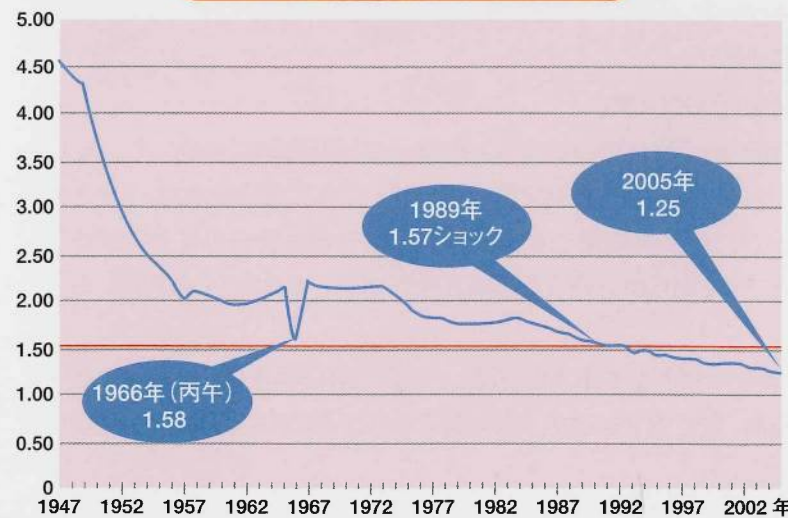
今から30年前には、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的役割分担に賛成する人は全体で7割以上ありました。現在では、「反対」が「賛成」を上回るようになりましたが、まだ、半数近くの方が「賛成」であるといわれ、女性の社会進出が進んだといわれる今日でも、仕事を続けたい気持ちがありながらも出産により退職する女性も多く、子育てが一段落してから再び仕事に就こうとしても、本人の希望する仕事に就くことが非常に困難であるというのが現状です。

結婚や出産という家庭生活上の大きな変化があっても退職しないで、仕事を続けることを選択できることが制度面だけでなく実態として用意されるとともに、子育て等の理由で一度退職した女性が、再び希望する仕事に就くことができるような体制づくりを進めていくことは非常に重要であるといえます。

働きながら子育てできる環境を整えるとともに、子育てのためにいったん仕事を退職した女性が家庭に入っても、希望すれば再びチャレンジできるような社会環境、男女共同参画社会を実現していくことは、「安心と喜びを持って子どもを育てることができる社会」の実現につながり、少子化対策として最も有効であるといえるのではないのでしょうか。



合計特殊出生率の年次推移



☆合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の合計で、1人の女性が一生の間に産む平均子ども数を表します。

☆1.57ショック

1989年、出産が少ないいわゆる丙午(ひのえうま)の1966年を下回り、戦後最低の1.57となり、「少子化」が社会問題として認識されるようになった。

男女共同参画推進セミナー

講談「女もいきいき 男もいきいき」

平成18年8月26日(土)、あつぎパートナーセンター集会室において、日本で初めての女性真打講談師、宝井琴桜(たからい きんおう)さんをお迎えして、男女共同参画推進セミナー「女もいきいき 男もいきいき」が開催されました。

パパンパンと打つ張扇(はりおうぎ)の歯切れよい場面展開とともに、ごみ問題に取り組んでいた普通の主婦が外国を訪問することになった時、夫が右往左往しながらも、家庭での参画が進んだことや、妻が議会で傍聴に出かける時、「お父さん、お昼が冷蔵庫にいろいろ入っているからチンして食べてくださいね。」と言うと、「何で女房がいるのに男が飯の支度をしなくちゃいけないんだ。」と言ったことに対し、「お父さん、言っときますけれども、めでたく定年になったということは、私もお世話係からめでたく退職させていただいたということですから、ごゆっくり。」と言って出かける話など、時には大笑いし、またある時には、なるほどなと実感させられ、これからの男女のあり方について、非常に深く考えさせられる内容でした。



Profile プロフィール

- 1949年 秋田県横手市出身
- 1968年 田辺一鶴氏にスカウトされ講談界に入る。
- 1969年 五代目宝井馬琴師匠門下となり、内弟子として修行を始める。
- 1975年 講談界で初の女性真打に昇格
古典講談はもとより、歴史上の女たち、また、現代の女性問題を取り上げた創作講談で好評を博す。
- 1996年 平成7年度東京女性財団賞を受賞



今後の主な平成18年度主催事業

| | |
|--|--|
| あつぎパートナーセンターフェスティバル | 平成18年11月11日(土)～12日(日) |
| 夫婦でつくる料理教室 ～手軽で豪華なパーティー料理～ | 平成18年11月18日(土) / 9:30～13:30 |
| 人権・男女共同参画推進セミナー 「上を向いて歩こう」 講師 柏木由紀子さん | 平成18年12月3日(日) / 13:30～15:30 ※場所:厚木市文化会館小ホール |
| 女性起業家入門講座(神奈川県・秦野市共催) | 平成19年2月7日～23日 / 10:00～15:00 / 計6回 |
| 男の料理教室 | 平成19年2月17日(土) / 9:30～13:30 |
| 新社会人のためのビジネスマナー講座 | 平成19年3月10日(土) / 10:00～15:00 |